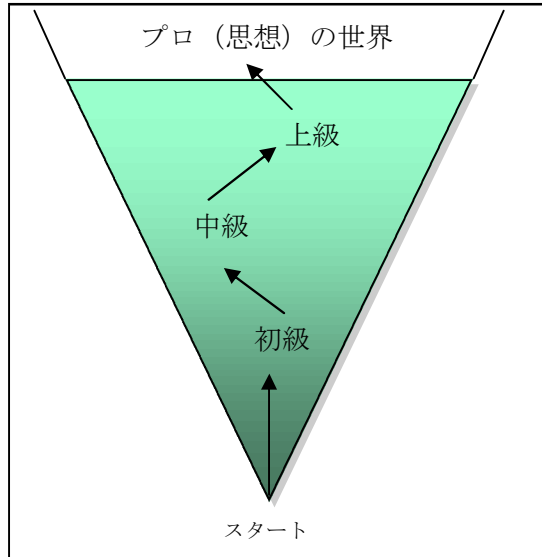


「写真を上手く撮るには」「良い写真とは」について

今回、写真にとって究極的ともいえるような課題に対して、皆さんに考えていただきました。最初は、漠然としたテーマをさ迷いますが、やがてハッキリとしたテーマを見つけた人は、それに向かって進んでいくことができます。すべてのジャンルに共通するのですが、逆三角形で例えることができます。



左図を参照してください。スタートした時点は、点にしか過ぎませんが、初級の段階では見える範囲・認識力が不足です。やがて段々と必要な糧を積んでいくという表です。

初級は、基礎段階です。カメラの使い方、写真の特性などの基本を学び、実践する段階です。この段階では、写真の面白さやアウトドアへ行き、健康とカメラ撮影の楽しさを知ることが大切です。

中級は、色々な被写体を上手く撮れるようにはどうしたらよいかという段階です。撮りたいものもたくさんあるでしょう。できるだけ撮りたいテーマを見つけ、絞って撮るようにすることの方が、早く上達する傾向があります。焦らずにコツコツと実践していきましょう。

上級は、表現していく段階です。イメージを描いて、撮影地に行き、観察力と集中力で被写体を見つけ出し、それまでやってきた経験を活かして瞬間に集中することができる段階です。

プロの世界は、思想の世界です。ただ単に写真を撮っているのではなく、表現（自己実現）のために人生を同化した人のことを言います。

新しいことへの挑戦

どんなことでも今までやったことのないことをすると、それまでちゃんと出来ていたことでも、一旦出来ないことがあります。この苦しい時に「考え、行動（失敗）」すれば乗り越えることができます。山道を歩くようなものです。苦しくとも山頂を目指して行くと、やがて爽やかな風が吹く山頂に辿り着くことができます。途中で引き返せば、その快感は味わうことが出来ません。

感性は想いの現れ

貴方は、想いを持ち続けていますか？日々の生活に埋もれていませんか？感性を磨くことは、決して難しいことではありません。あるものを好きになることなのです。狙いをひとつに絞ると、とっても楽になりますし、好きなのですから、一所懸命に取り組むことができます。私が最もおすすめするのは、撮影しようとするものの絵コンテを描くことです。一度行ったことのある場所を想像したり、一度撮ったことのある写真をみたりして絵コンテを作るのです。一見遠回りのような気がしますが、上達する近道です。絵コンテを描くときは、バランスとリズムを考えた画面構成。光と影による立体感。主役と脇役の配分を考えた興行。ワンポイントを入れたもの。躍動感。迫力感などを意識して行います。

写真が上手い人は、頭の中にこの絵コンテが描かれているのです。

皆さんから寄せられた内容は、それぞれの現状がでています。感性で悩んでいる人、基本的な技術で悩んでいる人、人それぞれです。寄せられた内容に間違っているものはありません。上手くなるためには、受動的ではなく、能動的になって取り組んでください。ウサギさんよりも亀さんの方が私は好きです。大学ノートを一冊買ってきて、「上手くなるためには」「気がついたこと」「私の撮影方法」などという項目をつけてとにかく書いてみましょう。そこには、どんなことでも良いのです。上手く撮れない悩みでも、撮れたときの喜びでも、そして、感動したことなどを書いていくのです。最初は、どんなに短い文章や断片でも結構です。年間計画や目標も大きな目安になります。

書いていくと、ページが埋まっていきます。それが実績なのです。この心の準備がないと「適切な指摘」も判断して受け取ることができないのです。とはいえ、あまり難しく考えないでください。今までどおり楽しみながら、それでいて小さな目標を持って撮影に臨みます。そのひとつひとつの積み重ねが写真を上達させ、意識の写真が撮れる要因となるのです。